

会 議 記 録

会議名称	第6回社会教育委員の会議
日 時	令和3年5月28日（金）午前10時31分～午後0時22分
場 所	分庁舎5階 会議室（オンライン会議）
出席者	委員 小澤、朝枝、南、檜枝、赤池、天野、内山、笹井 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、 社会教育推進担当係長（社会教育主事）、 教育連携担当係長（社会教育センター社会教育主事）、管理係主査、 社会教育センター主査（社会教育主事）
配付資料	<p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年度第5回社会教育委員の会議 会議記録（案） 2 令和3年度社会教育関係団体への補助金支出について 2 第16期杉並区社会教育委員の会議「まとめ」（案）※後日送付 <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 すぎなみ大人塾2020記録集 2 すぎなみ大人塾方南和泉コース プチ記録集2020 3 すぎなみ大人塾方南和泉コース人物かるた 4 学びカタ・ラボ 5 区民参加型展示「昭和は遠くなりにつけり」 6 区民参加型展示「花いそさんの記憶画展」
会議次第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議録の確認について 2 事業の進捗状況について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育関係団体への補助金支出について 2 検討課題について <ol style="list-style-type: none"> (1) 今期のまとめについて (2) 次回に向けて 3 その他

(意見要旨)

- 議長 第6回の社会教育委員会議で、今期の最後の会議ということで、これまでやってきたことをここで取りまとめるという作業が中心になる。今回も基本的にオンラインだが忌憚のない意見等頂ければと思っている。
- 生涯学習担当部長 今期最後の会だが、今後を展望するまとめになると思うので、引き続きご検討をお願いしたい。

I 報告事項

- 議長 次に、各審議会の審議状況について。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 区の基本構想審議会、教育振興基本計画審議会が同時に動いており、現在公表されている審議状況が分かるものをメール添付にしている。基本構想審議会は分科会方式が取られており、「学び」というタイトルのところが教育行政にかかわる主だった部分になる。「共に認め合い、みんなで創る学びのまち」ということを掲げ、「人生100年時代を自分らしくいきいきと生きるための学びを支援する」、「学びを通して誰一人取り残されない社会を実現するための条件と環境を整える」ということを目指すべきとして掲げられている。

教育振興基本計画審議会は、昨日の審議会前の資料で公表されている内容なので、昨日の結果を踏まえて更新したものを後日送るので参考程度ということでご了承いただきたい。ただ、私たちが大切にしたい教育の方向性を示す言葉として、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を掲げ、具体的には「学び合い、信頼をつくり、共に生きる」「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」「誰もが社会の創り手になる」という三つの柱がある。そして五つの視点が出されているが、内容の方向性を示されつつあるので、今回の会議のまとめとの関係性ということをも十分考える素地が出てきているところを紹介しておきたい。

II 協議事項 1 社会教育関係団体への補助金支出について

- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 社会教育関係団体に対する補助金交付概要について、対象団体は全区的な活動領域を持つ連合体組織に対する運営費と事業費の一部補助という考え方で成立している。小学校のPTA連合協議会、中学校PTA協議会、学校開放連合協議会、文化団体連合会の4団体であり、変更はない。

補助金交付対象団体の活動はコロナの中で中止や延期になり、オンラインなど工夫を凝らしながら運営をしていたが、補助金額と活動実績を照らし合わせてみると、多分に余剰を生まざるを得ない状況もあった。このため令和3年度は、補助金の額が全体として少なくなっている。具体的には、小学校PTA連合協議会が42万3,000円、中学校PTAは47万7,000円、学校開放連合協議会は、50万だったものが15万というように減っている。文化団体連合会は横引きのままである。

小学校、中学校は活動の実績に合わせた形で、予算の中で補助金を出すということになっている。学校開放連合協議会はデジタル化を進め、印刷費を使わずに作るということを実施するため、今年度のその部分は補助の中から外した。消耗品類は、学校との共用に切り替え、額が減った。

文化団体連合会は、杉並区総合文化祭の実施自体を中止し、補助金以外に分担金によって行っていた事業の実施を見送った経緯もあるが、役員会等の活動を実施していくということで補助金は支出するという事になっ

た。

このようなことから、連合体の活動自体も、やり方を工夫しながら実施されていることに対し、今後も補助金については支出をすることを前提として、一緒に考えつつやっていきたい。

○委員 予算が少し減額になっているところと大幅に減額になっているところとの説明は分かったが、文化団体連合会は特に減額の予定はないのか。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 団体自体の活動維持という観点で、杉並区総合文化祭を行わないものの、今後も活動を続けられるようなことを考えながらやっていくということから、団体運営については維持させたいという趣旨で補助金も維持する考え方である。

○議長 一般的には、予算を減らすと、次年度以降、元に戻すのが大変だがどうか。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 要綱上は予算の範囲で支出する考え方なので団体との話し合いになるが、活動の方法を見直して、それで可能であればその水準を維持するという考え方になるのではないかと。

○議長 予算を元に戻す工夫は行政としても必要だとは思っている。この調書を見て、疑問な点とか指摘いただければと思うがいかがか。

（ なし ）

○議長 今年度の補助金交付について差し支えないという旨を、社会教育委員会から意見を伝えようと思うがそれでよいだろうか。

（ 了承 ）

2-(1) 今期のまとめについて

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 「「学びのまち・杉並」とこれからの社会教育について」というタイトルで、「第16期杉並区社会教育委員の会議のまとめに変更はないが、タイトル自体も中身から見直す必要も可能性があるかもしれないもののこのままになっている。

もくじは、「ポストコロナ」という言葉を使うこと自体に課題があるという指摘があったので、「「ニューノーマル」の時代」というふうにタイトルを変えてみてはどうかと考えた。

10ページの頭までは変更をしてないが、今後もコロナ禍というならば、この社会教育をどうしていくかということも考え続けなくてはならず、どんな状況なのかを加え続けていく作業が必要になる。その作業をどこかで立ち止まって考える必要があるものの、まとめの中では初期の頃の話のみにとどめてしまっている。

「「コロナ禍」の経験に学ぶ」ということでは、会議の中で、人と人々が直接的に関わるという側面をもっと強調する必要があるのではないかと提案を頂いた。10ページの(2)辺りからそのことを意識して、修正を加えた。

○議長 今期のまとめとしてこれをつくれればということで説明して頂いたが、ご意見など頂ければと思う。

○委員 13ページから14ページにかけて「個人の責任において営むことに終始することである」とは、現状がそうだと離反的に取るべきなのか、そうやるべきだという考えなのかよく分からない。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 全てを個人の責任に負わせると

- いう考え方で全てを仕切ってしまうことには疑問を感じている。課題は一緒に考えていかなければいけないが、場が今まであまりなかった。
- 委員 これを素直に読むと、そうすべきだという方向に引っ張られてしまう。もしそうでないニュアンスがあるのなら、変なふうには引っ張られないように配慮した文章にしてほしい。
- 委員 まとめの位置づけについて再確認したい。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 基本は、状況の中で、可能性のある部分の提案を頂いたという位置づけで読み取って活用していきたい。
- 委員 これは区民に対しての提案なのか。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 社会教育行政に対しての部分もあるが、主体は区民という活動領域になるので、中身については共有していただき、議論していただきたい。
- 委員 行政からの発信と思われるような点がところどころある。3番目の丸ポチは「相互主体の関わり合いがあり」くらいのニュアンスに思った。その下は「多様な経験のある遠方の」くらいの感じにしてはどうか。「異質な」というのが出てくるが「異なる専門性」としてはどうか。異質な文化の方がわかりやすい。
- 委員 14ページ目の上から丸三つ目、「社会教育士等の導入を進める」という文章に違和感があるので、その背景について教えていただきたい。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 基本構想審議会の提言素案の中に出てきた用語である。そもそもは国家資格の社会教育主事は教育委員会が任用するのだが、かならずしもそのようなこととしてだけではなく、運用上改正されて呼称として社会教育士という称号を使えるようになった。つなぎ役として行政の仕組みの中に入れていってはどうかという意見が、基本構想の審議会の中で出てきたため、今回ここに入れたものである。
- 委員 全体の構築プランのコーディネーターみたいな役割を、社会教育士が担って進めていく役割が求められているということはとても大事なことだと思うので、書いておいたほうがよいと思う。
- 委員 社会教育士という新たな資格称号が最近できたということを経験として分かるようにするとよい。
- 生涯学習推進課長 社会教育委員から教育委員会に対して提案をしていただくというのがこのまとめなので、社会教育士が今後の生涯学習、社会教育を進めていくためには必要だというご提案に基づいて計画化していくという形に文章を修正していきたい。
- 委員 時代が進んでいけば、リアルにつながらなくても生きられる時代になると思われるが、関わらないことも尊重すべきである。
- 議長 意思で独りになるというのはとても大事なことだと思う。行政として、つながりたくてもつながれない、それはプッシュしなければいけないと思うので、どういように書くかは、検討させてほしい。
- 今日のご意見を踏まえてどう表現するかは、私にご一任いただければと思う。今日の議論に加えて、何かあれば6月10日頃までにお寄せいただきたい。今期の会議を振り返って一言何か頂ければと思う。
- 委員 社会教育委員として青少年問題協議会のほうにも出席を委嘱されていたが、1回しか開催されなかった。居場所というのは、大人も子どももすごく大事なものだと思った。自分自身とても勉強になった6年間だっ

- た。
- 委員 全てがコロナを前提にして考えなければいけないというところが精神的につらかったが、子どもの生活は変わらないと感じている。変わらないというベースのものを維持して、つなげていきたい。
 - 委員 この会議体自体が物すごい学びの場となり、自分の意見がクリアになり、新しい発想に結びついた
 - 委員 コロナで問題が露呈し、それを一つ一つクリアにしていく大転換期にあって、社会教育というのは本当に大切に重要で、やっていかなくてはいけないということを再確認している。
 - 委員 頭の中にいつも社会教育委員のことがあり、2か月に1回の会議だったが、2か月の間に宿題をもらいながら考えていく生活を定期的に行っているようだった。
 - 委員 改めて社会教育について考えることもなかったし、社会教育とは何だろうと考えると、答えはすぐには見つからないが、多分そういうものをベースにして地域活動をやっているのだろうと思っている。
 - 副議長 コロナの中で、いろいろなものが見えてきた。もっと社会がよくなるようにというように考えていけたらよいと思った。
 - 議長 この会議でいろんな人と話ができ、勉強の場だった。それぞれ個性や見識をお持ちなので、それが私にとっていい勉強になった。
 - 生涯学習推進課長 2年間、貴重なご意見を頂き本当にありがとうございました。
 - 笹井議長 これで終わりにしたいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。